

平成 23 年 9 月 9 日
気 象 庁

地震火山関連気象庁防災情報 XML フォーマットに係る資料の一部更新について

気象庁防災情報 XML フォーマット情報提供ページ (<http://xml.kishou.go.jp/>) に掲載されている地震火山関連 XML に係る資料の一部について、更新を行いました。変更内容は以下のとおりです。

1. AreaInformationCity コード表

(1) 岩手県、栃木県、島根県、埼玉県における市町合併等に伴うコード更新

平成 23 年 9 月 26 日に岩手県藤沢町が一関市に、10 月 1 日に栃木県西方町が栃木市に、島根県斐川町が出雲市に、10 月 11 日に埼玉県鳩ヶ谷市が川口市に編入することに伴い、藤沢町、西方町、斐川町、鳩ヶ谷市をコード表から削除します。この変更は、平成 23 年 10 月 11 日 13 時に適用します。

なお、この変更については、平成 23 年 8 月 26 日付で更新情報を掲載しておりますので、資料等はそちらをご覧ください。

2. 地震火山関連 XML コード表

このコード表の変更は、平成 23 年 10 月 11 日 13 時に適用します。

(1) 震度観測点パラメータ更新及び市町合併等に伴うコード更新（別紙 1 参照）

シート 24（AreaForecastLocalE コード表、AreaInformationCity コード表及び PointSeismicIntensity コード表）の更新

(2) 潮位観測点パラメータ更新及び沿岸地域の変更に伴うコード更新

ア. シート 32（CoastTsunami コード表）への追加

追加		
Code	Name	ふりがな
20090	青森深浦付近	あおもりふかうらふきん
23090	秋田男鹿付近	あきたおがふきん
24090	山形酒田付近	やまがたさかたふきん

イ. シート 33（PointTsunami コード表）の変更

追加		
Code	Name	ふりがな
20090	青森深浦沖	あおもりふかうらおき
20121	八戸港	はちのへこう
23090	秋田男鹿沖	あきたおがおき
24090	山形酒田沖	やまがたさかたおき
37003	坂井市三国	さかいしみくに

削除		
Code	Name	ふりがな
20101	八戸	はちのへ
37002	坂井市福井	さかいしふくい

(3) 活火山の追加に伴うコード更新

シート 82 (PointVolcano コード表) への追加

追加		
Code	Name	ふりがな
119	天頂山	てんちょうざん
120	雄阿寒岳	おあかんだけ

3. 地震火山関連 XML 電文解説資料 (別紙 2 参照)

(1) 地震・津波に関連する情報における記載修正

Ⅱ. (i) ア. (ア) 津波警報・注意報・予報、(イ) 津波情報、イ. (ア) 緊急地震速報 (警報)、緊急地震速報 (予報)、ウ. (イ) 地震情報 (震源に関する情報)、(ウ) 地震情報 (震源・震度に関する情報)、(カ) 地震情報 (顕著な地震の震源要素更新のお知らせ) の jmx_eb:Coordinate【震源要素】について、現行の運用では、深さの値 (ただし、ウ. (カ) においては日本測地系における深さの値) は 10km 単位で記載していることから、事例の値を 10km 単位に修正しました。

また、Ⅱ. (i) ア. (イ) 津波情報の 1-2-2-3. MaxHeight【津波の高さ (推定値)】の @type の記載内容に誤記がありましたので修正しました。

更新該当項及びページは以下のとおりです。変更の見え消しを別紙 2 に示します。

項	ページ
表紙	—
はじめに	—
Ⅱ. (i) ア. (ア) 津波警報・注意報・予報	Ⅱ. 11-6
Ⅱ. (i) ア. (イ) 津波情報	Ⅱ. 12-5、Ⅱ. 12-12
Ⅱ. (i) イ. (ア) 緊急地震速報 (警報)、緊急地震速報 (予報)	Ⅱ. 21-2
Ⅱ. (i) ウ. (イ) 地震情報 (震源に関する情報)	Ⅱ. 32-2
Ⅱ. (i) ウ. (ウ) 地震情報 (震源・震度に関する情報)	Ⅱ. 33-2
Ⅱ. (i) ウ. (カ) 地震情報 (顕著な地震の震源要素更新のお知らせ)	Ⅱ. 36-2

(別紙1)

シート 24 (AreaForecastLocalE コード表、AreaInformationCity コード表及び
PointSeismicIntensity コード表) の更新内容

1. 新規観測点(2地点)

	地域コード	地域名称	地域名称の読み	XML市町村コード	情報用市町村名称	情報用市町村名称の読み	XML震度観測点コード	震度観測点名称	震度観測点名称の読み	備考
新	441	静岡県東部	しずおかけんとうぶ	2221000	富士市	ふじし	2221035	富士市吉永	ふじしよしなが	
新	441	静岡県東部	しずおかけんとうぶ	2221000	富士市	ふじし	2221036	富士市大淵	ふじしおおぶち	

2. 移設観測点(4地点)

	地域コード	地域名称	地域名称の読み	XML市町村コード	情報用市町村名称	情報用市町村名称の読み	XML震度観測点コード	震度観測点名称	震度観測点名称の読み	備考
旧	210	岩手県沿岸北部	いわてけんえんがんほくぶ	0348200	山田町	やまだまち	0348210	山田町八幡町	やまだまちはちまんちょう	
新	210	岩手県沿岸北部	いわてけんえんがんほくぶ	0348200	山田町	やまだまち	0348201	山田町八幡町	やまだまちはちまんちょう	恒久観測点として移設
旧	372	新潟県下越	にいがたけんかえつ	1510200	新潟東区	にいがたひがしく	1510230	新潟東区古川町	にいがたひがしくふるかわまち	
新	372	新潟県下越	にいがたけんかえつ	1510200	新潟東区	にいがたひがしく	1510231	新潟東区下木戸	にいがたひがしくしもきど	移設
旧	550	和歌山県北部	わかやまけんほくぶ	3020400	有田市	ありだし	3020400	有田市箕島	ありだしまのしま	
新	550	和歌山県北部	わかやまけんほくぶ	3020400	有田市	ありだし	3020401	有田市箕島	ありだしまのしま	移設
旧	592	広島県南西部	ひろしまけんなんせいぶ	3410500	広島安佐南区	ひろしまあさみなみく	3410530	広島安佐南区緑井	ひろしまあさみなみくみどりい	
新	592	広島県南西部	ひろしまけんなんせいぶ	3410500	広島安佐南区	ひろしまあさみなみく	3410531	広島安佐南区祇園	ひろしまあさみなみくぎおん	移設

3. 修正観測点(2地点)

	地域コード	地域名称	地域名称の読み	XML市町村コード	情報用市町村名称	情報用市町村名称の読み	XML震度観測点コード	震度観測点名称	震度観測点名称の読み	備考
旧	741	熊本県熊本	くまもとけんくまもと	4346800	熊本氷川町	くまもとひかわちよう	4346830	熊本氷川町島地	くまもとひかわちようしまち	
新	741	熊本県熊本	くまもとけんくまもと	4346800	氷川町	ひかわちよう	4346830	氷川町島地	ひかわちようしまち	同一読み市町村の解消
旧	741	熊本県熊本	くまもとけんくまもと	4346800	熊本氷川町	くまもとひかわちよう	4346831	熊本氷川町宮原	くまもとひかわちようみやはら	
新	741	熊本県熊本	くまもとけんくまもと	4346800	氷川町	ひかわちよう	4346831	氷川町宮原	ひかわちようみやはら	同一読み市町村の解消

4. 市町村合併(4地点)

	地域コード	地域名称	地域名称の読み	XML市町村コード	情報用市町村名称	情報用市町村名称の読み	XML震度観測点コード	震度観測点名称	震度観測点名称の読み	備考
旧	213	岩手県内陸南部	いわてけんないりくなんぶ	0342200	藤沢町	ふじさわちよう	0342230	藤沢町藤沢	ふじさわちようふじさわ	
新	213	岩手県内陸南部	いわてけんないりくなんぶ	0320900	一関市	いちのせきし	0320939	一関市藤沢町	いちのせきしふじさわちよう	H23. 09. 26市町村合併による変更
旧	311	栃木県南部	とちぎけんなんぶ	0932100	西方町	にしかたまち	0932130	西方町本城	にしかたまちほんじよう	
新	311	栃木県南部	とちぎけんなんぶ	0920300	栃木市	とちぎし	0920334	栃木市西方町本城	とちぎしにしかたまちほんじよう	H23. 10. 01市町村合併による変更
旧	331	埼玉県南部	さいたまけんなんぶ	1122600	鳩ヶ谷市	ほとがやし	1122630	鳩ヶ谷市三ツ和	ほとがやしみつわ	
新	331	埼玉県南部	さいたまけんなんぶ	1120300	川口市	かわぐちし	1120331	川口市三ツ和	かわぐちしみつわ	H23. 10. 11市町村合併による変更
旧	570	島根県東部	しまねけんとうぶ	3240100	島根斐川町	しまねひかわちよう	3240131	島根斐川町莊原	しまねひかわちようしょうばらまち	
新	570	島根県東部	しまねけんとうぶ	3220300	出雲市	いずもし	3220339	出雲市斐川町莊原	いずもしひかわちようしょうばら	H23. 10. 01市町村合併による変更

5. 発表を取りやめる観測点(2地点)

	地域コード	地域名称	地域名称の読み	XML市町村コード	情報用市町村名称	情報用市町村名称の読み	XML震度観測点コード	震度観測点名称	震度観測点名称の読み	備考
旧	520	大阪府北部	おおさかふほくぶ	2720700	高槻市	たかつきし	2720731	高槻市消防本部	たかつきししょうぼうほんぶ	庁舎建て替えのための一時休止
旧	530	兵庫県北部	ひょうごけんほくぶ	2820900	豊岡市	とよおかし	2820936	豊岡市中央町	とよおかしちゆうおうちよう	庁舎建て替えのための一時休止

(別紙2)

地震火山関連 XML 電文解説資料の変更内容の見え消し

地震火山関連 XML 電文解説資料

平成 23 年 29 月
気象庁地震火山部

はじめに

この「地震火山関連 XML 電文解説資料」（以下「本解説資料」という。）は、平成 23 年~~3~~5月本格運用開始の地震火山関連の気象庁防災情報 XML フォーマット（以下「気象庁 XML」という。）による電文について、実際の地震火山関連の警報や情報等の運用に即して詳細に説明したものである。

気象庁 XML については、既に、「気象庁防災情報 XML フォーマット」仕様（平成 23 年~~2~~9月現在、平成 22 年 8 月 6 日付 ver1.1 が最新版）や「気象庁防災情報 XML フォーマット運用指針」（平成 23 年~~2~~9月現在、平成 ~~22~~23年~~9~~8月 ~~15~~26日付 ver~~1~~4.~~1~~2 が最新版）等において、その基本的な仕様や運用も含め公開しているところである。このため、本解説資料は、それら既存公開資料との重複記載は極力せず、詳細な事項や地震火山関連電文に特化した事項について記載しており、上記既存公開資料と合わせて本解説資料を読むことで全体像を把握していただくという利用を想定している。

なお、今後の地震火山関連の警報・情報等の運用の変更がある場合等に、本解説資料の内容が変わる可能性がある。

本解説資料では、表記短縮のため、基本的に、各要素（element）を示す場合には当該要素の名称だけを用い（例えば、Status 要素については「Status」、Control/EditorialOffice 要素については「Control/EditorialOffice」のように表記する）、属性（attribute）を示す場合には属性の名称の前に「@」を付けたものを用いることとしている（例えば、type 属性については「@type」、Areas 要素の codeType 属性については「Areas/@codeType」のように表記する）。また、本解説資料で用いる用語については、以下に示すもののほか、気象庁 XML に関連する各種資料で用いられる用語の例に依る。

用語

津波に関連する情報

津波警報・注意報・予報、津波情報をまとめてこのように呼ぶ。

地震・津波に関連する情報

津波に関連する情報、緊急地震速報（警報）、緊急地震速報（予報）、緊急地震速報の配信テスト電文、震度速報、震源に関する情報、震源・震度に関する情報、地震の活動状況等に関する情報、地震回数に関する情報、顕著な地震の震源要素更新のお知らせをまとめてこのように呼ぶ。

東海地震に関連する情報

東海地震予知情報、東海地震注意情報、東海地震に関連する調査情報をまとめてこのように呼ぶ。

火山に関連する情報

噴火警報・予報、火山の状況に関する解説情報、噴火に関する火山観測報、火山現象に関する海上警報・海上予報をまとめてこのように呼ぶ。

例外表現1(全要素が不明の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="震源要素不明" />
```

例外表現2(深さの例外表現)

・震源の深さが 5km より浅い場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯 37.5 度 東経 138.6 度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6-3000+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが 0km の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯 37.5 度 東経 138.6 度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが 600km 以上の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯 37.5 度 東経 138.6 度 深さは 600 km 以上" datum="日本測地系">+37.5+138.6-670000/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが不明の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯 37.5 度 東経 138.6 度 深さ不明" datum="日本測地系">+37.5+138.6/</jmx_eb:Coordinate>
```

2-3-1-3. DetailedName【詳細震央地名】(0 回/1 回)

国外で発生した地震について、震源地の詳細な位置を発表する場合は、その名称を記載する。また、これに対応するコードを、後に続く DetailedCode に記載し、その@type にコード種別“詳細震央地名”を記載する。具体的なコードの値については、別途提供するコード表を参照。

事例

```
<DetailedName>チリ中部沿岸</DetailedName>  
<DetailedCode type="詳細震央地名">1135</DetailedCode>
```

2-3-1-4. NameFromMark【震央補助表現】(0 回/1 回)

日本近海で発生し、津波警報・注意報を発表した地震について、震源地の詳細な位置を示すための目印となる地名を記載する。また、これに対応するコードを、後に続く MarkCode に記載し、その@type にコード種別“震央補助”を記載する。具体的なコードの値については、別途提供するコード表を参照。また、後続の Direction に目印から見た震央の方向を 16 方位で記


```
<Type xpath="Item/Area/Code">沿岸地域</Type>  
</CodeDefine>
```

1-2-2. Item【津波の推定値(沿岸地域毎)】(1 回以上)

沿岸地域毎に推定される津波の到達時刻、高さ等の情報を記載する。推定値を発表する沿岸地域の数に応じて、本要素が複数出現する。

1-2-2-1. Area【沿岸地域】(1 回)

対象となる沿岸地域の名称を子要素 Name に、対応するコードを子要素 Code に記載する。対応するコードは、「コード体系の定義」(Body/Tsunami/Estimation/CodeDefine) で定義されている。具体的なコードの値については、別途提供するコード表を参照。

1-2-2-2. FirstHeight【津波到達時刻(推定値)】(1 回)

当該沿岸地域に津波が到達すると推定される時刻を記載する。時刻は時間幅を持たせ、子要素 ArrivalTimeFrom に早い方の時刻を、子要素 ArrivalTimeTo に遅い方の時刻を記載する。

GPS 波浪計による観測値から当該沿岸地域への津波到達予想時刻を推定する場合、推定時刻よりも早く沿岸地域に津波が到達している可能性があるため、子要素 Condition を追加し、“早いところでは既に津波到達と推定”と記載する。

続報において、新たに本要素が出現する場合は子要素 Revise に“追加”を、既出であった本要素の内容が更新される場合は“更新”を記載する。

事例

```
<FirstHeight>  
  <ArrivalTimeFrom>2010-02-28T15:32:00+09:00</ArrivalTimeFrom>  
  <ArrivalTimeTo>2010-02-28T15:47:00+09:00</ArrivalTimeTo>  
  <Condition>早いところでは既に津波到達と推定</Condition>  
  <Revise>追加</Revise>  
</FirstHeight>
```

1-2-2-3. MaxHeight【津波の高さ(推定値)】(1 回)

当該沿岸地域に到達すると推定される津波の高さを記載する。子要素 jmx_eb:TsunamiHeight に推定される津波の高さを、あるいは、幅を持たせて表現する場合は、子要素 TsunamiHeightFrom に低い方の高さを、子要素 TsunamiHeightTo に高い方の高さを記載する。いずれの子要素にも、@type に“**津波の高さ最大波**”、@unit に津波の高さの単位である“m”、@description に文字列表現を記載する。また、「～以上」の表現については、事例

事例1(国内で発生した地震の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯39.0度 東経140.9度 深さは10km" datum="日本測地系">+39.0+140.9-10000/</jmx_eb:Coordinate>
```

事例2(国外で発生した地震の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="南緯17.2度 東経178.6度 深さは570km">-17.2+178.6-570000/</jmx_eb:Coordinate>
```

例外表現1(全要素が不明の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="震源要素不明" />
```

例外表現2(深さの例外表現)

・震源の深さが5kmより浅い場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6-3000+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが0kmの場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが600km以上の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 深さは600km以上" datum="日本測地系">+37.5+138.6-670000/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが不明の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 深さは不明" datum="日本測地系">+37.5+138.6/</jmx_eb:Coordinate>
```

2-3-1-3. DetailedName【詳細震央地名】(0回/1回)

国外で発生した地震について、震源地の詳細な位置を発表する場合は、その名称を記載する。また、これに対応するコードを、後に続く DetailedCode に記載し、その@type にコード種別“詳細震央地名”を記載する。具体的なコードの値については、別途提供するコード表を参照。

1-3-1-1. Name【震央地名】(1 回)

震央地名の文字列表現を記載する。また、これに対応するコードを Code に記載する。

1-3-1-2. Code【震央地名コード】(1 回)

震央地名コードを示す。@type に参照すべきコード種別“震央地名”を記載する。対応するコードについては、「コード表(震央地名)」を参照。

1-3-1-3. jmx_eb:Coordinate【震源要素】(1 回)

ISO6709 の規格に従い、震源の緯度、経度を度単位で、深さをメートル単位で記載し、属性 @description に文字列表現を記載する。本要素に記載する深さの値は、深さ 600km より浅いところでは 10,000 メートルの単位で有効であり、@description における深さは 1,000 メートルの位を四捨五入して 10km 単位で表現する。

通常、日本測地系に基づくため、@datum に“日本測地系”を記載する。

深さが不明の場合等の例外的な表現については、事例にある例外表現のとおり。

事例1 (通常地震の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯39.0度 東経140.9度 深さ 10km"  
datum="日本測地系">+39.0+140.9-10000/</jmx_eb:Coordinate>
```

例外表現1 (深さの例外表現)

・震源の深さがごく浅い場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯39.0度 東経140.9度 ごく浅い"  
datum="日本測地系">+39.0+140.9-3000+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さがごく浅い場合(0km)

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯39.0度 東経140.9度 ごく浅い"  
datum="日本測地系">+39.0+140.9+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

(※「緊急地震速報(警報)」、「緊急地震速報(予報)」の場合、現行の運用では、震源の深さを「ごく浅い」とせず、本要素の内容、属性「@description」において、震源の深さを 10km とし
て扱い発表する。)

・震源の深さが 600km 以上の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯39.0度 東経140.9度 深さは600km  
以上" datum="日本測地系">+39.0+140.9-670000/</jmx_eb:Coordinate>
```

事例

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯39.0度 東経140.9度 深さ10km" datum="日本測地系">+39.0+140.9-10000/</jmx_eb:Coordinate>
```

例外表現1(全要素が不明の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="震源要素不明" />
```

例外表現2(深さの例外表現)

・震源の深さが5kmより浅い場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6-3000+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが0kmの場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが600km以上の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 深さは600km以上" datum="日本測地系">+37.5+138.6-670000/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが不明の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 深さ不明" datum="日本測地系">+37.5+138.6/</jmx_eb:Coordinate>
```

1-4. jmx_eb:Magnitude【マグニチュード】(1回)

地震のマグニチュードの値を記載する。@type にはマグニチュードの種別を、@description には文字列表現を記載する。

また、マグニチュードが不明の場合、これらの属性に加えて@condition が出現し、ここにマグニチュードが不明である旨を示す固定値“不明”を記載する。マグニチュードの値には“NaN”を記載する。

また、国内で発生した地震の場合は、@datum に“日本測地系”を記載するが、国外で発生した地震の震源要素は世界測地系に基づき表現するため、@datum は出現しない。

深さが不明の場合等の例外的な表現については、事例にある例外表現のとおり。

事例1(国内で発生した地震の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯39.0度 東経140.9度 深さ10km" datum="日本測地系">+39.0+140.9-10000/</jmx_eb:Coordinate>
```

事例2(国外で発生した地震の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="南緯17.2度 東経178.6度 深さ570km">-17.2+178.6-570000/</jmx_eb:Coordinate>
```

例外表現1(全要素が不明の場合)

```
<jmx_eb:Coordinate description="震源要素不明" />
```

例外表現2(深さの例外表現)

・震源の深さが5kmより浅い場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6-3000+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが0kmの場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 ごく浅い" datum="日本測地系">+37.5+138.6+0/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが600km以上の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 深さは600km以上" datum="日本測地系">+37.5+138.6-670000/</jmx_eb:Coordinate>
```

・震源の深さが不明の場合

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯37.5度 東経138.6度 深さ不明" datum="日本測地系">+37.5+138.6/</jmx_eb:Coordinate>
```

1-3-1-3. DetailedName【詳細震央地名】(0回/1回)

国外で発生した地震について、震源地の詳細な位置を発表する場合は、その名称を記載す

@description に文字列表現を記載する。本要素に記載する深さの値は、深さ 600km より浅いところでは世界測地系については 1,000 メートル、日本測地系については 10,000 メートルの単位で有効であり、@description における深さは、世界測地系については 1km 単位で、日本測地系については 1,000 メートルの位を四捨五入して 10km 単位で表現する。

事例

```
<jmx_eb:Coordinate description="北緯34.8度 東経138.5度 深さ20km" datum="日本測地系">+34.8+138.5-23000-20000/</jmx_eb:Coordinate>  
<jmx_eb:Coordinate type="震源位置(度分)" description="北緯34度47.1分 東経138度29.9分 深さ23km">+3447.1+13829.9-23000/</jmx_eb:Coordinate>
```

1-4. jmx_eb:Magnitude【マグニチュード】(1回)

地震のマグニチュードの値を記載する。@type にはマグニチュードの種別を、@description には文字列表現を記載する。また、マグニチュードが不明の場合、これらの属性に加えて @condition が出現し、ここにマグニチュードが不明である旨を示す固定値“不明”を記載する。マグニチュードの値には“NaN”を記載する。

事例1(気象庁マグニチュードによる表現)

```
<jmx_eb:Magnitude type="Mj" description="M6.6">6.6</jmx_eb:Magnitude>
```

事例2(マグニチュードが不明の場合)

```
<jmx_eb:Magnitude type="Mj" condition="不明" description="M不明">NaN</jmx_eb:Magnitude>
```

2. Text【テキスト要素】(0回/1回)

自由文形式で追加的に情報を記載する必要がある場合等に、本要素を用いて記載する。例えば、ヘッダ部の「情報形態」(Head/InfoType)が“取消”の場合に、取消しの概要等を本要素に記載する。

3. Comments【付加文】(0回/1回)

情報の本文に加えて付加的な情報を記載する必要がある場合は、本要素以下に情報を記載する。ヘッダ部の「情報形態」(Head/InfoType)が“取消”の場合、本要素は出現しない。